

イギリスの DIY Street の現状と地域住民の関わり方に関する研究
 ーオックスフォード Beech Croft Road の住民組織に着目してー

21318059 持田 茉椰
 指導教員 是澤 紀子 准教授

DIY Street ホームゾーン コミュニティ
 イギリス オックスフォード 住民組織

1. 研究の目的と背景

オランダのの Wonnerf を基に、英国では 1990 年代後半から住宅地の道路を移動だけでなく”生活の場”としての機能を持たせる、「Home Zone」プログラムが行われた。交通速度の抑制を促すために、道路の狭窄やスピードハンプの設置、道の舗装、ストリートファニチャーの設置を行う。Sustrans による「DIY Street」は、Home Zone を参考に、よりコストを抑えた方法で同じ効果を得られるかどうかを 11 の地域でテストしたプロジェクトである。

2010 年プロジェクト終了直後の結果は Sustrans のレポートで報告されているが、第 3 者による研究や、現状を報告したものは見受けられない。そこで本研究では、DIY Street の現状を評価し、継続的に使用されるにはどのような要素が必要なのかを検討する。

本研究では Sustrans による 11 の DIY Street プロジェクトの概況を把握するために、Google Map Street View を用い、道に置かれているストリートファニチャーや、道の舗装、植栽の有無を確認した。そこで、定期的な手入れが必要と思われるプランターや植栽のある道路を抽出し、2017 年 9 月 21 日～29 日の間に現地で現在の状態や使われ方を観察した。表 1 は、各道路の現在の使用状況である。抽出した道路は、色付けされている Monsell Road, Clapton Terrace, Passhouse Road/Firshill Road, Iden Road, Beech Croft Road の 5 つである。さらに、現地調査で現在の使用状況が良かった Oxford の Beech Croft Road については、DIY Street プロジェクトを主導した住民組織へのヒアリングと、資料の分析を行った。

2. Sustrans による DIY Street 五箇所の現状

今回の調査では、植栽や、道の舗装、ストリートファニチャーの現在の保存状況や、手入れの状況を確認した。定期的に手入れの必要と思われる、植栽やプランターに着目すると、狭窄に使われている樹木や、植栽は全ての地域で手入れがされていたが、プランターは手入れのされていない地域も見られた。Clapton Terrace, Beech Croft Road のプランターは、手入れが良くされ、花も咲いていたが、Passhouse Road は枯れていた。近隣住民に緑の手入れについてヒアリングをしたところ、Beech Croft Road を除いては、誰が管理をしているか認識しておらず、City Council が行っているのではないかと回答が得られた。自転車ラックは Clapton Terrace, Beech Croft Road に設置されており、特に、Beech Croft Road に於いては、手作りだが必要な修理も施されていた。また、道路のペイントは、色が薄くはなってしまうものの、Beech Croft Road にのみ見られ、ゴミも落ちていなかった。

Beech Croft Road には、手入れの必要な物や、DIY Street で設置された物が多く残っており、保存状態も良い。第 3 章ではこの管理状況の良さの背景を探る。

3. Beech Croft Road

3-1 Beech Croft Road で DIY Street が実現するまで

Beech Croft Road は、Oxford の中心地から 2.7km 北に位置した住宅街にある。表 2 は Beech Croft Road で DIY Street が実現するまでの時系列を示している。2002 年頃、

表 1 現在の DIY Street に見られる特徴

no	City	Street name	狭窄				ハンプ	道の舗装		ストリートファニチャー					備考	
			木	道	植栽	プランター		ペイント	ブロック	自転車ラック	プランター	ゲート	植栽	アート		サイン
1	Manchester	Penn Street	○										○			
2	London	Monsell Road			○				○							○
3	London	Clapton Terrace	○	○		○	○	○	○							
4	Cardiff	Somerset Street	○													
5	Sheffield	Passhouses Road Firshill Road,		○	○		○						○			
6	Torquay	Ellacombe Road			○											
7	Port Talbot	Castle Street														何も見当たらない
8	London	Brooke /Evering Road junction					○			○						
9	Bridgend	Heol Degwm, Cornelly														芝生のみ
10	Coventry	Iden Road		○			○						○	○		
11	Oxford	Beech Croft Road				○	○	○	○	○					○	

※ 1 つ以上あれば○をつける

表 2 DIY Street が実現するまでの主な出来事

年	内容
2002年	交通静穏化のアイデアが住民間で議論され始める
2006年	一住民が交通静穏化について講演
2007年	レジデンツアソシエーションの設立
2007年	Zone 20に設定される
2007年	DIY Streetトライアル実施のアンケート
2007年	DIY Streetペイントトライアル
2007年	SustransのDIY Streetプロジェクトへの参加決定
2007年	現状の道についての住民から見たアンケート
2008年	アウトライン作成
2008年	模型を使つてのワークショップ
2008年	最初のドラフト完成
2009年	道を封鎖してのトライアルイベント
2009年	詳細プラン決定
2010年	DIY Street実施



図 1 Beech Croft Road の現在の様子

子供が道で安全に遊べるようにと、交通静穏化のアイデアについて、住民のホームパーティやストリートパーティで話されるようになった。2005 年の道路変更により通過交通が増加したことで、住民の問題意識が高まり、2006 年の、1 人の住民によるコペンハーゲンで交通静穏化のアイデアの講演で Sustrans とつながり、2007 年に Sustrans による DIY Street のプロジェクトの 1 つになり、本格的に活動を始めた。その後も、住民組織を設立し、ペイントトライアルや、アンケート、ワークショップ、ドラフト案作成などを行った。合意形成は、住民全員をハムレットと呼ぶグループに分け、議論を促すことで、ほぼ全員の賛成が得られた。2010 年には City Council に承認され、DIY Street が実施された。DIY Street の 11 プロジェクトの中で、他の地域は Council 主導で行われたが、Beech Croft Road だけは住民組織主導で行われた。

3-2 Beech Croft Road で行われている活動

Beech Croft Road は 1890 年代後半に開発され、元々住民の交流は盛んであったが、2007 年に DIY Street への参加をきっかけにレジデンツアソシエーションが作られた。住民の 95% が加入しており、その住民組織を中心に活動が行われている。道を閉鎖してのストリートパーティや、読書会、アップルブレッシング、フィルムナイト等が住民により今現在も行われている。ハロウィンパーティは、近年有名になり、地域外の人も訪れている。2017 年 10 月 31 日の現地調査時点でも住民が協力し、家の飾り付けやお菓子、軽食などを準備し、ハロウィンパーティを運営していた。

3-3 Beech Croft Road で DIY Street の現在の状況

現在、Beech Croft Road の管理は、住民によって行われている。道の植栽は、2~3 人が週に多くて 3 時間程度、水やりや、肥料、土の追加を行い、清掃は、1 年に 1 回全世帯に声をかけ一斉に行う。10 年が経過しているため、ペイントの剥がれなど、老朽化は進んでいるが、必要に

応じて修繕されており、植栽も手入れされている。Oxford の City Council から、適切な管理を求められているが、担当制でなくても、自分たちの道だという意識がある為、自然に行われている。子供の安全を目的に作られたが、近年は子供の居住者が少なく、あまり見られない。しかし、住民や近くの高齢者施設の車椅子

子が車道歩道関係なく、歩いている様子が伺えた。

DIY Street の実施により、車の速度は 2007 年の 21mph から 2011 年の 16mph に減少した^{注 1)}。図 2 は、Beech Croft Road の北側に隣接する同時期に開発された Thorncliffe Road とのポーチ前タイルの比較である。Beech Croft Road の道路ペインティングは、住宅の前庭にあるビクトリアンタイルの模様を参考にしてしている。経年劣化により、タイルの模様を変えている住宅が多い中、Beech Croft Road は、元々のビクトリアンタイルに模様している住宅が多く、道に愛着を持っていることが伺える。

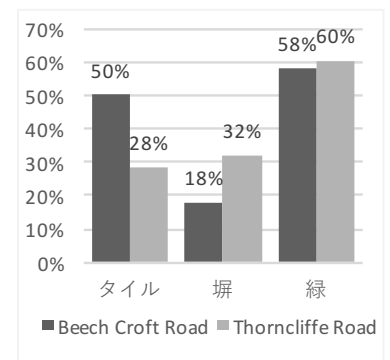


図 2 Beech Croft と Thorncliffe の比較

住宅の前庭を囲う塀は Thorncliffe Road の方が多く、DIY Street を実施した Beech Croft Road の方が、道に自分の前庭を開いている。

4. まとめ

DIY Street を実施してから 10 年、住民が意識を持ち、自分達で管理をすることが、当時の状況を保っていく為に必要なことだと考えられる。計画段階からの住民の自発的な問題意識が必要に加え、日常生活の中で、コミュニティが築けているかが重要である。

【注釈】

1)Oxford County Council の調査による

【参考文献】

1)Sustrans : Creating your own DIY StreetA simple guide, 2010

2)Sustrans : DIY Streets Project Review 2010, 2010

3)Alexandra Allen : DIY STREETS: CREATING PEOPLE-FRIENDLY SPACES, AFFORDABLY, Association for European Transport and contributors, 2009

4)Department for Transport : HOME ZONES Challenging the future of our streets, 2005